

国際交流センターの活動を紹介します GEX e-NEWSLETTERを発刊します！

国際交流センター (Global Exchange Center) は、本学の国際交流等に係る戦略的な企画立案・総合調整、学生や研究者の国際交流、国際活動等を一元的に管理する組織として令和元年7月1日に設立されました。

平成23年3月に発生した未曾有の東日本大震災、原子力発電所事故を間近に経験した本学は、大規模な県民健康調査によるデータの蓄積や、災害医療に関する研究・人材育成を進めるなど、福島の復興に向けて医療面から取り組んでいます。

また、その取組は世界中から注目されており、より正確に、よりスピーディに本学の情報を発信していくことが求められています。

そのためには、従来から行ってきた学術交流協定に基づく学生や教職員の国際交流に加え、より多くの海外の大学や国際機関、企業などの研究機関と連携した取組を更に推進し、国際的視野を兼ね備え本学リー

ダーシップを発揮できる医療人の育成や、本学の教育、研究及び医療水準の向上を図ることが必要です。

国際交流センターには山下俊一センター長をはじめ、28名のセンター員が所属しており、毎月1回、学術交流協定の締結・更新、国際学会やシンポジウムに関する情報共有など国際交流に関する様々な議題について話し合っています。

三学部の学生への英語教育の充実を図り、グローバル化に対応できる医療人を輩出すべく鋭意努力しています。特に、ポストコロナ、ウィズコロナの時代に即応したウェブ対応等を推進しています。今回、これらの活動をより身近に感じてもらうため「GEX e-NEWSLETTER」を発刊することになりました。

本学の更なる国際化に向けて、国際交流センターはこれからも皆様のご協力とご支援を頂きながら活動していきますので、今後ともよろしくお願いいたします。

写真：左から
Nollet副センター長
挾間副理事長
竹之下理事長
山下センター長
和栗副センター長
鈴木副センター長



ベトナム・ホーチミン市医科薬科大学との 学術交流協定を更新します

8月25日に開催された役員会においてベトナム・ホーチミン市医科薬科大学との学術交流協定の更新が承認されました。

ホーチミン市医科薬科大学と本学は、平成28年の協定締結前からJICA草の根事業の一環として現地疫学研修や共同研究を実施してきました。

協定締結後は、上記の交流に加え、医学部生、看護学部生、大学院生、若手医師や若手研究者を派遣したり、ベトナムから医師を受け入れるなど交流の幅は大変広がりました。

特に、現地での疫学研修は、平成16年度から昨年度まで合計934人の修了者を輩出し、平成30年度からは地方研修も実施するなど、現地の医療環境の

向上に多大な貢献をしてきました。

昨年度から、新型コロナウイルスの影響でオンライン研修のみとなっていますが、現地交流が再開されたら、ぜひ多くの学生に研修の運営や技術協力など国際協力の実験を経験していただきたいと思っております。



写真：後藤 あや教授(前列右から7番目)

イギリス・レスター大学の オンライン医療英語プログラムを受講しました

令和2年度は、新型コロナウイルスの発生と感染拡大の影響で中国・武漢大学、アメリカ・マウントサイナイ医科大学、ベラルーシ・ゴメリ医科大学への学生派遣は残念ながら中止となりました。

このような状況の中で、少しでも学生に海外と触れる機会を提供したいとの考えから、代替措置として、令和3年2月～3月にかけてイギリス・レスター大学のオンライン医療英語プログラムを開設し、医学部4・5年生10名が受講しました。

レスター大学は、医学、遺伝子工学などの分野で国際的に評価の高い大学で、当プログラムも毎年世界中の医学生が受講しています。

今回は計6回のプログラムで、英国人の模擬患者さんを相手にする英語医療面接実習、現地学生との交流を経験しました。

参加した学生からは「ボリューム、レベル、クオリティ、多くの点においてちょうどよく満足できるものであった」「純粹に通常の医療面接の復習にもなった」「二学年での授業は新鮮で、今後の勉強の励みになるような発見がたくさんあった」などたくさんのご意見をいただきました。

今年度も学生派遣は中止となりましたので、当プログラムを計画中です。

開講する際には是非多くの学生に参加してほしいと思っています。